

風を見る者



ようこそ同村会へ!

初めて会報が届いた新卒業生の皆さん。
卒業と同時に、皆さんは東野高等学校同村会の会員となりました!
同村会会員として、今後も東野に貢献していきましょう!

発行者

東野高等学校同村会 (同窓会)

〒358-8558 埼玉県入間市大字二本木112-1

メールアドレス: info@dousonkai.com

ホームページ: http://www.dousonkai.com



1期生同期会
6月9日(金)夜。所沢のとあるお店に、30年という年月を身に纏った32名の1期生が集いました。東野を卒業してから初めてとなる、1期生による同期会です。
既に東野をお辞めになられた何森仁先生をはじめ、望月雅枝先生、小林厚子先生、清水敬作先生、小島芳男先生、萩沼茂先生(順不動)、現役の前田良郎先生達がお忙しい中を駆けつけて下さり、笑い声や当手を懐かしむ声が、会場のあちこちで溢れ出ていました。

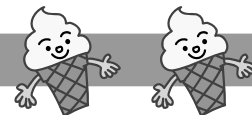


先生方との親睦会
去る2月25日(土)、同村会役員と先生方との親睦会を小手指で開催しました。当日は10名もの先生が参加してくださり、普段は聞くことのできない現場のご意見等をお聞きかせいただくことができ、とても有意義な時間となりました。今後も、定期的に親睦会を継続していく必要性を多く感じました。

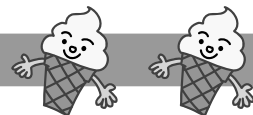


★higashinohigh1@gmail.com

出席された皆さんからは定期的な開催を望まれる声もあり、また、欠席された方も含め、これを期に同期の繋がりを再確認して下さい等、ただ楽しく懐かしいだけでなく、あらためて1期生の力を感じる、とても有意義なイベントとなりました。
なお、同期会の開催にあたり、1期生の連絡用に右写真下部分★のアドレスを取得しました。繋がりのある1期生についての情報をお寄せ下さると有り難いです。今後、定期的な同期会の開催を目指し、いつか200名を超える大同期会の開催を目指したいと思います!



お手伝いさん募集!



★学園祭のお手伝いをお願いします。

今年の学園祭(盈華祭)は、9月9.10日。今年も同村会はアイスの販売を行います。テントで卒業生と「懐かしい東野」を語り合ったり、在校生に「新しい東野」を覚えてもらったりしませんか?

去年、同村会は同村会カラーの「オレンジのテント」を購入しました。オレンジのテントと一緒に盈華祭を盛り上げてくれる卒業生を探しています。どちらか1日だけ、または両日、お手伝いをいただける方、ぜひ!同村会までご連絡下さい。

✉ info@dousonkai.com fax 04-2934-6462

★そして! 合言葉は『会報届いてる?』

同村会は年1回、卒業生の皆さんに会報をお送りしてきました。会報の届いていない卒業生は、連絡先不明の卒業生です。

今後、卒業生全員にお声かけする『東野高校大同窓会』などのイベントも企画しておりますが、連絡先不明の卒業生には、案内をお送りすることができません。住所変更がありましたら必ず同村会にもご連絡下さい。

また、会報の届いていないお友達がいらっしゃいましたら、ぜひ!同村会に連絡下さるようお伝えください。





2016年度卒業式

3年間を振り返って

30期生学年主任 鞠子和也

2017年3月、節目となる30期生が東野高校を卒業しました。卒業していき生徒達の表情は、30年前に東野高校がこの地に誕生してから今までの間、きつと変わらないものだろうと禮上から眺めていました。

3年前、学年主任に任命され生徒をどのように成長させて送り出すかということを考えてきました。高校は社会に出るための通過点であり、礼儀やマナーといった

今後必ず必要となることを第一に伝えなければならぬ。その思いが強かったことを今でも覚えています。

入学してきた1年生は勉強の仕方がわからない、他人とのコミュニケーションがうまく取れない、恋愛相談、ちよっと目立ちたい等、様々な悩みや高校生活への楽しみが入り混じっていました。そんな生徒達に担任が中心となってアドバイスをたくさんしてきました。その結果、体育祭や文化祭、スキー実習などの学校行事で生徒同士の距離を縮めていくことができました。距離が縮まり過ぎて自己主張が強くなってしまふことや、SNS上でのトラブルも増えてしまいました。

2年生になると生徒達は馴れ合いが始まりました。学習も疎かになり、楽しいことが優先という考え方になってしまい、指導する機会が多くなりました。しかし、夏休みを過ぎるとちやんと将来のことを考えはじめ、大学や専門学校へ足を運ぶようになりまし

た。高校生は突然考え方が変わり、その行動力には驚かされました。きつと今、これを誇られていく方も「高校生の時はこうだった」と思い出すのではないのでしょうか。

3年生では進路実現のため、学習に一生懸命取り組んでいました。また、残り1年間という高校生活を楽しまつために行事にも全力で参加。頑張った分、進路先の可否や卒業式では泣いたり笑ったりと溢れる感情を抑えきれない様子でした。今後東野高校は求められる存在である必要があります。そのためには伝統を継承するだけでなく、新たな教育改革の流れを掴み進歩をしなければなりません。今も昔も変わらないものは、高校生活を楽しまたいという思い。そのためには行事や学習など、どんな事に対しては努力をしてみたいか、どんな感さ味わってほしいか、これらも引き続き考えていきたいと思います。

最後になりましたが、30期生の皆さん卒業おめでとう！そしてこれからも同村会の一員としてご協力を宜しくお願いします。

お辞めになった先生方より

私たちの東野

元東野高等学校長 中出清治

東野は設計者のアレクサンダーが「美しい村」と呼び、理想的な学びの空間として卒業生の皆さんからも親しまれてきました。東野の生徒、父母、教職員にとつて森や池や広場に囲まれて校舎のある環境は人間形成にとつてかけがえのない感性を育んでくれたのではないのでしょうか。「沈黙の春」を著したレイチェル・カーソンは、「知る」ことは、「感じる」ことの半分も重要ではないのです、と言っています。皆さんは、この豊かな感性にもとづいて、生きる上で無限にある選択肢を自らの可能性を伸ばすようにして選び、オンリーワンの道を歩み続けておられることでしょうか。

私が接した生徒の皆さんは、平和や戦争、核や環境など社会的な問題について自分の意見を率直に主張し感心させられました。例えば、「21世紀はどんな世紀になるだろう」と聞いたところ、ある生徒は「とにかく何事も進歩し地球も緑が多くなり自然環境も豊になる。人々がどんどん地球を大切にしながら、いろいろな面で発展している。」「他方」「どんどん環境破壊がすすみ木や食べ物などがなくなる。食べ物めぐり世界中で戦争がおき地球はめちやくちや

になり、ほとんどの人が死に絶える。わずかに生き残った人たちがほそほそと暮らしている。」「と対照的な予測を述べています。21世紀となった現在、皆さんはどのようにお考えでしょうか。「学ぶ」ことは、呼吸や水を飲むのと同様に生きる限り続きます。さて私について少しお話しさせていただきます。1943年生まれの私は、富山県高岡市で育ちました。あの漫画家の藤子不二夫は、小学校の先輩です。手塚治虫の「鉄腕アトム」「火の鳥」なども好きですが、藤子不二夫の漫画は、雪国の子どもたちの空想力から発想し「ドラえもん」などが描かれたと聞いています。どこでもドアは、雪で閉ざされ外で遊べない子どもが、どこにも行けるドアがあることでしょうか。子どもは空想力を働かせたことでしょうか。子どもは遊びが第一、近所ガキたちと面白く遊べたのは、今の憲法のおかげ、とくに第十三条の「すべて国民は、個人として尊重される。」「が、あったからこそだと思ふこの頃です。

滴水穿石

元国語科教員 島村博道

人生というのは夢中になれるものがどれだけあるかにつきるねー私の大好きなロック歌手矢沢永吉（永ちゃん）の言葉です。十代の頃の私はごく平凡な少年でした。運動が特別できる訳でもない。勉強は仕方なくやり成績も振るわない。英語と理数系はからっきしダメ。でも大学へは何となく行きたい。というよりも高卒で働きたか捨てた。だから受験は落ちまくり、一校だけ拾ってくれた。親に大変迷惑をかけた。こんな具合ですから入学しても特にやりたいものはなし。第二外国語である屈折後（英・独・仏）はやりたくない。ならば漢字だけの中国語しかない。同期は不純で目的も何もあつたものではない。

主だった現在の先生方

1学年団



- ▼上段左から
Safo、尾又、千葉、榎本、坂本
- ▼中段左から
菅原、森田、塚田、佐藤、鴨川、武井
- ▼下段左から
鬼嶋、大井、鞠子(学年主任)、五十嵐、平本、井上
(敬称略)



中川 進 理事長



北村陽子 学校長



森 俊朗 教頭



鹿島 健 主幹

2学年団



- ▼上段左から
桃原、仲本、山田(哲)、増岡
- ▼中段左から
大森、星、此木、鹿間、大隈、高津
- ▼下段左から
山口、川口、青木(学年主任)、磯野、小島、稻荷
(敬称略)

3学年団



- ▼上段左から
藤井、内田、松浦、鈴木、西本、小池、富田
- ▼下段左から
山田(善)、渡辺、遠藤、前田(学年主任)、樋口、長原、河野
(敬称略)

運命はわからないものですね。いざ始めてみるとこれが実に面白い。何しろ漢字(言葉)の並べ方さえわかればいい。多くの人が苦にする発音や声調変化も短時間で習得できました。そうそう東野十五期生に遠藤真紀さんという女子生徒がいました。私の選択学習中国語入門を受講していました。彼女は耳(音感)が素晴らしく良く日本人の苦手の発音・声調も難なく習得しました。今どうしているかなあ。

やつと夢中になれるものをつつけたのです。すると今度は未知の世界がどんどん博月。毎日新鮮で、興奮の連続です。大学だけでは物足りなく夜間学校に通い始めました。そこには同志も中国人の先生もいる。足掛け五年通いました。卒業後は会社員になりましたが合わず一年でやめて大学院に進みました。

しかし、もつと話せるようになりたいと思ひ、シンガポールの南洋大学に留学したのです。この時も親には非常に迷惑をかけた。本当は中国に留学したかったのですが当時中には国交がなかった。加えて中国は文化大革命という大動乱の最中でした。断念せざるを得ませんでした。その後紆余曲折はありましたが中国語の世界に夢中になっていきます。悠久の歴史を有する中国・中国語の世界は汲めども尽きぬ魅力に満ちています。

退職後は専門学校で中国人の先生と楽しい語らいをしています。更には角地で在日中国人や留学生と交流を続けています。物事の上達はかけた時間に比例するといひます。練習は不可能を可能にするといひます。身をもちつて感します。夢中になれるものをつつけたのです。一つしかありませんけれど。

中国の諺に「船は舵がなければ進む方向が定まらない。人は志がなければ何も成し遂げられない」といいます。私の志は中国・中国語なんです。本を二冊紹介します。矢沢永吉「成りあがり」角川文庫 立原正秋「冬の旅」新潮文庫